

俳句の可能性

学習ノート①

3年()組()番()

季語(夏)

切れ字

どの子にも 涼しく風の 吹く日かな

飯田 龍太

五

七

五

【鑑賞】

「ここは公園の木陰なのだろうか、それとも海辺のことなのだろうか。

(複数)の(子ども)たちに(涼しい風)が平等に吹いていて、なんともさわやかでのんびりとしている。

作者は偶然、通りかかったのだろうか、とても心地よさげにしている子どもたちの姿に美しさを感じ、その感動を「(かな)」と切れ字を使うことで、これ以上は言えないという断念を表している。

〈俳句の約束事〉

①(季語)・・・季節を示す題材を詠みこむ。

参考「歳時記」=季語を(春夏秋冬)に分類整理した書物。

②五・七・五の十七音・・・俳句の(定型)

①と②をあわせて「有季定型」という。

③(切れ字)・・一句の感動を深め、強める働きをする。

かな・けり・や

季語(冬)

病床

正岡 まさおか
子規 しき

いくたびも

雪の深さを

尋ねけり

【鑑賞】

雪が激しく降っている。しかしながら(病床)の子規は、自らの眼でそれを確かめることができない。そうして病室に出入りする人に外の様子を尋ねては(見えない雪景色を想像)している。

またここで、「けり」と切れ字を用いて(これ以上は言えない)といふ断念を示している。想い

俳句の可能性 学習ノート②

季語(冬)

友岡 子郷

「跳び箱の 突き手一瞬・冬が来る

【鑑賞】

「跳び箱に手を突いた（一瞬）」と「長い期間の（冬）」を一気に結び合わせたのは宙で触れた（澄んだ大気）だった。「突き手一瞬」には一切（助詞）が使われず（緊張感）が生まれている。

季語(春) 主格 擬態語 切れ字

たんぽぽの ぽぽと絮毛の たちにけり 加藤 楠邨

【鑑賞】

春にタンポポが咲く様子を、「ぽぽ」という（擬態語）を使って、（軽やか）に表現している。

〈技法〉

①（擬態語）・・その様子を言葉で表現。「さらさら」「にこつ」

反復法 体言止め(夏?) 死に場所

分け入つても 分け入つても 青い山 種田 山頭火

【鑑賞】

「有季定型」は俳句の約束だが、時にその約束からはみ出てしまう作品もある。「分け入つても」の（反復法）でくり返されることで行く先を見う姿を、「青い山」の（体言止め）で突き放された姿が伝わる。

（種田山頭火）の句は、自由な音律から「自由律俳句」とよぶ。

〈技法〉

②（無季）・・季語のない俳句。

③（自由律）・・五・七・五の定型以外の音となる。

④（反復法）・・語句のくり返しを使つてリズム表現方法。

⑤（体言止め）・・句末を体言で止め、余韻を残す表現方法。

俳句の可能性

学習ノート③

3年（　）組（　）番（　）

俳句を作つてみよう

秋→季節

- ① 季節・季語（□）を決める（俳句中に示す）例　とんぼかな
- ② 季語にまつわるエピソードをまとめる
- ③ 表現技法（直喻・隠喻・擬人法・体言止め・字余りなど）を工夫する。（横に線を引いて示す）

例

雪の、とく

直喻法

--	--	--	--	--